

付属統計表
第II部

第76表 職業別就業増加のコーホートの比較

第76表 職業別就業増加のコーホートの比較(就業者、男) (単位 万人)

	年齢計		15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50歳以上
	15~19歳	20~24	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55歳以上
(59年～元年)										
総数	185	79	232	103	10	7	0	-5	-11	-236
専門的・技術的職業従事者	98	1	31	39	15	10	7	5	2	-12
事務従事者	-11	5	28	21	1	-3	-5	-9	-7	-42
販売従事者	37	9	42	32	1	-4	-6	-5	-6	-27
運輸・通信従事者	4	2	14	7	1	0	0	-2	-2	-18
技能工、生産工程作業者	2	36	77	7	-12	-6	-12	-6	-7	-74
他の職業	55	26	40	-3	4	10	16	12	9	-63

資料出所 総務庁統計局「労働力調査」
(注) 年齢は上段が59年、下段が元年の年齢

第77表 雇用失業率が1975年水準で変わらないとした場合の分配率

第77表 雇用失業率が1975年水準で変らないとした場合の分配率

(単位 %)

	日 本	アメリカ	西ドイツ	イギリス	フランス
1975年	67.5	73.6	73.1	80.2	69.7
1976	67.3	72.7	71.5	78.2	71.3
1977	68.1	71.5	71.9	78.2	71.6
1978	66.7	70.3	71.1	77.1	71.9
1979	66.7	70.6	70.8	78.2	72.5
1980	66.9	73.2	72.8	82.1	76.4
1981	68.9	73.2	74.9	85.0	78.3
1982	69.4	76.9	76.1	84.4	79.7
1983	70.5	75.3	75.3	82.4	79.9
1984	70.3	72.3	73.9	81.3	80.5
1985	69.4	72.1	73.5	81.2	79.9
1986	69.9	71.6	72.3	82.7	77.4
1987	70.6	71.0	72.3	78.7	76.9
1988	70.3	—	—	—	—

資料出所 日本については、経済企画庁「国民経済計算年報」、総務庁統計局「労働力調査」

その他については、日本銀行「国際比較統計」、OECD「Labour Force Survey」

(注) 雇用失業率(失業者数/(雇用者数+失業者数))が1975年水準で変らないとした場合の失業者数と実際の失業者数の差を雇用者数に加え、一人当たり雇用者所得の実績値を乗じたものを雇用者所得として求めた。

第78表 個人企業所得比率の推移

第78表-1 個人企業所得比率の推移

(単位 %)

	日 本	アメリカ	西ドイツ	イギリス	フランス
1975年	16.6	9.7	20.0	7.0	21.1
1976	16.5	9.6	21.2	7.4	20.5
1977	15.4	9.5	21.0	7.1	19.7
1978	15.5	9.6	20.8	7.0	19.7
1979	15.3	9.4	20.2	6.7	19.4
1980	13.1	8.2	18.3	6.2	15.8
1981	12.0	7.6	16.6	6.3	15.8
1982	11.4	7.0	16.9	7.0	15.8
1983	11.0	7.0	19.1	7.0	15.8
1984	10.5	7.7	19.6	7.3	15.7
1985	10.8	7.9	20.0	6.8	15.8
1986	10.3	8.3	21.8	6.9	16.0
1987	10.4	8.5	—	6.6	16.5
1988	9.9	8.2	—	—	—

第78表-2 自営業主・家族従業者比率の推移

(単位 %)

	日 本	アメリカ	西ドイツ	イギリス	フランス
1975年	30.2	9.7	15.0	8.1	18.2
1976	29.6	9.3	14.6	8.0	17.8
1977	29.4	9.3	14.1	7.8	17.4
1978	29.8	9.2	13.6	7.7	17.2
1979	29.3	9.3	13.3	7.6	17.0
1980	28.3	9.4	12.9	8.1	16.8
1981	27.7	9.4	12.8	8.8	16.7
1982	27.3	9.6	13.0	9.2	16.4
1983	26.6	9.7	13.2	9.6	16.2
1984	26.0	9.4	13.1	11.2	16.1
1985	25.7	9.1	13.1	11.5	16.0
1986	25.2	8.9	12.9	11.7	15.8
1987	25.1	8.9	12.8	12.7	15.7
1988	24.5	—	—	—	—

資料出所 日本については、経済企画庁「国民経済計算年報」、総務庁統計局「労働力調査」
 その他については、日本銀行「国際比較統計」、OECD "Labour Force Survey"

第79表 給与総額に占める役員給与の割合

第79表 給与総額に占める役員給与の割合

(単位 %)

資本金階級	計	1億円未満	1～10億円	10億円以上
昭和35年度	13.8	20.7	5.0	1.9
36	12.2	20.1	5.2	1.4
37	12.6	19.9	5.0	1.7
38	12.3	19.8	5.1	1.5
39	12.4	19.8	5.3	1.6
40	13.1	20.8	4.9	1.5
41	12.7	19.7	4.6	1.4
42	12.6	19.8	4.5	1.3
43	13.5	20.1	4.6	1.4
44	12.9	19.7	4.3	1.2
45	12.6	19.3	4.2	1.2
46	13.3	20.6	4.1	1.1
47	13.1	20.1	4.1	1.1
48	13.3	20.5	4.1	1.1
49	13.2	20.5	4.0	1.0
50	14.1	20.7	4.5	1.1
51	14.5	21.6	4.4	1.1
52	15.1	22.5	4.4	1.2
53	14.8	21.2	4.4	1.2
54	15.3	21.8	4.5	1.2
55	15.5	22.2	4.7	1.2
56	15.8	22.4	4.8	1.3
57	15.9	22.7	4.8	1.3
58	16.4	23.7	5.0	1.4
59	16.0	22.9	4.9	1.4
60	15.9	23.0	5.1	1.4
61	15.8	22.7	5.1	1.4
62	15.9	22.8	5.3	1.5
63	16.0	23.0	5.2	1.5

資料出所 大蔵省「法人企業統計年報」

第80表 性・年齢階級別分位分散係数の変化

第80表 性・年齢階級別分位分散係数の変化

	昭和50年			平成元年			ポイント差		
	十分位 分散係数	四分位 分散係数	労働者 構成(%)	十分位 分散係数	四分位 分散係数	労働者 構成(%)	十分位 分散係数	四分位 分散係数	労働者 構成(%)
男女計	0.58	0.30	—	0.64	0.33	—	0.06	0.03	—
男子	0.49	0.25	100.0	0.56	0.28	100.0	0.07	0.04	0.0
～17	0.25	0.13	0.6	0.27	0.13	0.2	0.03	0.00	－0.4
18～19	0.22	0.11	2.8	0.20	0.09	2.0	－0.01	－0.02	－0.8
20～24	0.26	0.13	13.4	0.25	0.12	10.0	－0.01	－0.01	－3.4
25～29	0.29	0.14	19.4	0.28	0.14	13.2	0.00	0.00	－6.2
30～34	0.31	0.16	16.5	0.34	0.16	12.8	0.03	0.01	－3.7
35～39	0.39	0.20	13.9	0.37	0.19	14.5	－0.02	－0.01	0.6
40～44	0.47	0.23	11.4	0.42	0.21	14.5	－0.05	－0.02	3.1
45～49	0.53	0.25	8.7	0.50	0.25	12.8	－0.03	0.00	4.1
50～54	0.60	0.29	6.1	0.58	0.28	9.9	－0.02	0.00	3.8
55～59	0.62	0.29	3.6	0.62	0.30	6.7	0.00	0.01	3.1
60～64	0.56	0.25	3.5	0.68	0.31	2.4			－0.1
65～				0.79	0.31	0.9			
女子	0.40	0.18	100.0	0.47	0.21	100.0	0.07	0.03	0.0
～17	0.21	0.11	1.8	0.16	0.07	0.3	－0.04	－0.04	－1.4
18～19	0.21	0.10	9.0	0.17	0.09	5.4	－0.03	－0.01	－3.6
20～24	0.23	0.12	28.8	0.22	0.11	25.1	－0.01	－0.01	－3.7
25～29	0.33	0.16	13.0	0.29	0.15	13.7	－0.04	－0.01	0.6
30～34	0.48	0.26	7.2	0.44	0.24	7.5	－0.03	－0.02	0.3
35～39	0.55	0.26	8.4	0.55	0.31	9.3	0.01	0.05	0.9
40～44	0.57	0.25	9.9	0.63	0.32	10.4	0.07	0.07	0.5
45～49	0.61	0.27	8.8	0.67	0.31	10.8	0.07	0.04	2.0
50～54	0.62	0.27	6.7	0.67	0.29	9.2	0.05	0.02	2.5
55～59	0.61	0.25	3.7	0.75	0.31	5.4	0.15	0.06	1.7
60～64	0.59	0.26	2.6	0.82	0.33	2.1			0.3
65～				0.85	0.32	0.9			

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」
(注) 十分位分散係数=(第Ⅹ十分位数-第Ⅰ十分位数)/(2×中位数)
四分位分散係数=(第Ⅲ四分位数-第Ⅰ四分位数)/(2×中位数)

第81表 年齢間賃金格差の推移

第81表 年齢間賃金格差の推移(昭和40～50年、所定内給与、20～24歳=100)

	20～24歳	25～29	30～34	35～39	40～49	50～59
(男子)						
昭和40年	100.0	130.0	156.4	174.5	197.3	193.6
45	100.0	130.2	155.6	171.3	187.0	181.9
50	100.0	124.1	150.6	167.2	175.6	171.5
(女子)						
40	100.0	111.6	116.3	116.3	112.8	114.0
45	100.0	110.6	106.4	108.5	112.4	113.0
50	100.0	107.0	105.2	100.5	103.2	103.8

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

(注) サービス業を除く民営である。

第82表 賃上げに当たり最も重視した年齢層別企業構成比の推移

第82表 賃上げに当たり最も重視した年齢層別企業構成比の推移

(単位 %)

年	計	特定の労働者層に重点をおいた	最も重点を置いた労働者層						どの労働者層も同じ
			小計	新 規 学 卒 者	在籍者 若年層	在籍者 中年層	在籍者 高年層	その他	
昭和54年	—	—	100.0	6.2	34.1	47.6	2.3	9.8	—
55	—	—	100.0	5.5	34.3	44.4	1.8	13.9	—
56	100.0	48.3	100.0	5.7	42.7	44.8	2.6	4.2	51.7
57	100.0	42.7	100.0	8.0	38.3	44.0	3.9	5.9	57.3
58	100.0	36.9	100.0	8.5	48.1	34.0	4.8	4.6	63.1
59	100.0	39.0	100.0	5.0	50.8	35.6	4.8	3.8	61.0
60	100.0	41.1	100.0	8.1	47.1	37.2	3.5	4.1	58.9
61	100.0	42.7	100.0	9.2	49.1	34.3	3.0	4.5	57.3
62	100.0	42.3	100.0	9.0	48.8	34.9	2.4	4.9	57.7
63	100.0	47.9	100.0	13.0	50.0	28.8	4.0	4.3	52.1
平成元年	100.0	57.1	100.0	17.5	51.1	23.8	3.5	4.1	42.9

資料出所 労働省「賃金引上げ等の実態に関する調査」

第83表 年齢別企業規模間賃金格差の推移

第83表 年齢別企業規模間賃金格差の推移
(男子、所定内給与、1000人以上規模=100)

(1) 昭和40～50年(サービス業を除く産業計、民公営)

	20～24歳	25～29	30～34	35～39	40～49	50～59
100～999人						
昭和40年	107.3	107.4	101.2	94.3	85.9	78.2
45	100.7	101.7	98.9	95.0	88.7	79.0
50	98.5	99.0	97.5	93.9	87.5	78.6
10～99人						
40	113.6	109.6	96.5	86.2	74.7	65.8
45	104.9	103.8	96.3	88.5	78.5	68.2
50	99.7	98.0	93.0	85.3	75.5	65.8

(2) 50年以降

	20～24歳	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59
100～999人								
昭和50年	96.9	96.0	94.4	91.9	87.1	82.8	78.3	79.6
55	94.6	93.3	92.4	90.0	86.5	82.9	85.8	82.7
60	95.5	92.6	89.9	89.7	86.9	82.7	80.0	80.1
61	95.4	92.8	89.9	88.7	86.1	83.2	78.8	81.3
62	95.7	93.9	90.0	88.9	86.9	83.5	81.3	82.1
63	95.6	93.5	89.8	88.5	87.0	83.8	81.4	81.2
平成元年	94.4	94.4	89.3	86.7	84.9	83.3	80.1	80.7
10～99人								
50	97.4	94.5	89.8	83.1	75.6	70.4	65.2	69.1
55	97.7	95.1	90.0	84.4	78.3	71.8	69.8	71.7
60	97.5	93.9	87.2	82.9	76.7	70.7	66.6	70.1
61	96.7	93.2	87.2	82.1	75.9	70.3	66.5	70.3
62	97.3	94.1	87.7	81.5	76.8	70.9	66.8	69.9
63	96.9	94.4	88.0	82.2	77.3	72.2	67.7	70.1
元	97.5	96.0	87.8	81.4	75.9	71.5	66.8	68.4

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

第84表 男子の企業規模別平均年齢

第84表 男子の企業規模別平均年齢

(単位 歳)

	規模計	1000人以上	100～999人	10～99人
昭和50年	36.1	35.1	35.4	37.6
55	37.8	37.1	37.0	39.0
60	38.6	38.0	38.0	39.8
平成元年	39.3	38.7	38.6	40.6

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」

第85表 企業規模別実質売上高生産性上昇率の推移

第85表 企業規模別実質売上高生産性上昇率の推移(年率)
(単位 %)

	1,000人以上規模	20～99人規模
昭和40～45年	12.7	10.4
45～50	5.7	3.7
50～55	9.1	4.7
55～60	5.8	3.2
60～62	5.7	1.2

資料出所 通商産業省「工業統計表」
他は第II-41図(1)の資料出所に同じ。
(注) 1) 製造品出荷額等/(従業者数×国内工業製品
卸売物価)
2) 1,000人以上規模については、大企業性製品の
卸売物価、20～99人規模については中小企業性
製品の卸売物価をそれぞれ用いた。

第86表 企業規模別国内工業製品卸売物価の関数推計

第86表 企業規模別国内工業製品卸売物価の関数推計(四半期)

1. 関数型等

$$\ln WPI = \alpha + \beta \cdot \ln rf + \gamma \cdot D + \delta \cdot \ln Z + \varepsilon \cdot \ln C$$

WPI: 企業規模別国内工業製品卸売物価指数(60年基準)

rf : 為替レート(円/ドル)

D : 企業規模別製造業製品需給判断D.I.(大企業と中小企業)

Z : 原材料価格(輸入原材料価格(輸入物価契約通貨ベースの石油・石炭・天然ガスと
金属)と素原材料国内品価格を総合卸売物価に占めるウェイトで加重平均したもの
である。)

C : 企業規模別製造業賃金コスト(=現金給与総額指数×雇用者数/生産指数で、60年
平均=100とした。現金給与総額と雇用者数については500人以上規模と30～99人規
模のもので、いずれも季節調整値である。)

(1) 計測期間 昭和60年1～3月期→平成元年10～12月期の20期

(2) 資料出所 労働省「毎月勤労統計調査」、総務庁統計局「労働力調査」、大蔵省「企業短期経済観測調
査(全国企業)」、中小企業庁試算「規模別生産指数」、「規模別卸売物価指数」、日本銀行
「物価指数年報」により労働省労働経済課試算

2. パラメータ

	大企業	中小企業
α	2.495177 [6.0435]	2.512612 [5.4453]
β	0.205700 [10.3842]	0.114795 [9.9755]
γ	0.000374 [3.1379]	0.000700 [6.7895]
δ	0.048772 [1.6999]	0.044808 [1.6397]
ε	0.167489 [1.7531]	0.279641 [3.2681]
\bar{R}	0.99257	0.97277
DW	1.2202	1.3032

(注) δ には平成元年4～6月期以降の消費税導入の影響が含まれていることに留意する必要がある。

第87表 一人当たり労働費用格差の推移

第87表 一人当たり労働費用格差の推移

(5,000人以上=100としたときの30~99人)

	総労働費用	現金給与総額	現金給与＋法定福利費	現金給与以外の労働費用
昭和48年	65.5	68.0	68.3	51.4
49	68.8	71.2	71.6	55.2
50	64.7	67.3	68.0	50.2
51	65.0	67.9	68.4	49.9
52	63.0	65.8	66.1	49.2
53	62.2	65.6	65.8	46.4
54	61.1	64.9	65.2	43.6
55	60.8	64.1	64.7	44.7
56	60.5	63.3	64.1	47.4
57	60.6	63.3	63.8	48.4
58	59.1	62.1	62.7	45.2
59	60.5	63.8	64.5	45.3
60	60.4	63.5	64.2	45.7
63	58.5	62.7	63.4	41.2

資料出所 労働省「賃金労働時間制度等総合調査」

第88表 項目別一人当たり労働費用の規模間格差

第88表 項目別一人当たり労働費用の規模間格差

(5,000人以上=100)

	1,000～4,999人	300～999人	100～299人	30～99人
総労働費用	83.4	71.5	64.7	58.5
現金給与総額	86.9	75.7	69.0	62.7
退職金等の費用	57.7	37.2	31.6	19.7
法定福利費	88.2	78.6	72.2	70.5
住居に関する費用	48.0	27.9	18.9	8.4
文化・体育・娯楽に関する費用	50.2	45.4	51.0	56.9
その他の法定外福利費	43.3	34.6	29.0	35.7
教育訓練費	71.4	55.6	37.3	29.0
その他の費用	95.3	70.7	53.6	36.9

資料出所 労働省「賃金労働時間制度等総合調査」(63年)

第89表 規模別退職金制度形態の推移

第89表 規模別退職金制度形態の推移

(単位 %)

	退職金制度あり企業割合			
		退職一時金のみ	両方あり	退職年金のみ
企業規模計				
昭和50年	90.7	67.1	19.7	13.2
53	92.2	62.1	21.5	16.4
56	92.1	55.4	26.2	18.5
60	89.0	51.9	33.8	14.3
1,000人以上				
昭和50年	99.8	40.2	56.5	3.4
53	99.9	37.7	53.8	8.5
56	99.6	24.6	63.9	11.5
60	99.9	18.1	71.8	10.1
300～999人				
昭和50年	99.4	50.3	40.6	9.1
53	99.9	42.8	41.0	16.2
56	99.4	36.2	43.2	20.6
60	98.5	32.0	51.1	16.8
100～299人				
昭和50年	96.6	63.0	25.8	11.3
53	97.3	57.1	24.5	18.3
56	95.9	49.2	28.6	22.2
60	94.9	40.4	42.5	17.0
30～99人				
昭和50年	87.7	71.3	14.1	14.6
53	89.6	66.7	17.3	16.0
56	90.0	60.3	22.4	17.3
60	86.1	58.8	27.8	13.3

資料出所 労働省「退職金制度・支給実態調査」

第90表 資産総額の増加とGNP

第90表 資産総額の増加とGNP

(単位 兆円、倍)

	資産総額	名目GNP	資産/GNP
昭和58年	3355.1	280.6	12.0
昭和63年	5993.0	367.4	16.3
伸び率(年率)	12.3	5.5	

資料出所 経済企画庁「国民経済計算年報」

第91表 調整勘定とGNP

第91表 調整勘定とGNP

(単位 兆円、%)

	調整勘定	名目GNP	調整勘定/名目GNP
昭和59年	69.8	298.5	23.4
60年	107.3	317.4	33.8
61年	337.8	331.3	102.0
62年	482.3	345.5	139.6
63年	310.9	367.4	84.6

資料出所 経済企画庁「国民経済計算年報」

第92表 調整勘定の内訳

第92表 調整勘定の内訳

(単位 兆円)

	合計	法人企業	土地		株式	家計 (個人企業を含む)	土地	
			株式	株式			株式	
昭和59年	69.8	29.0	9.2	28.2	42.3	35.3	8.7	
60年	107.3	50.9	21.3	23.4	57.1	51.1	9.8	
61年	337.8	143.4	72.0	89.4	189.0	164.2	31.8	
62年	482.3	164.3	128.0	46.0	292.7	267.3	23.0	
63年	310.9	140.3	38.8	123.5	166.9	120.6	51.3	

資料出所 経済企画庁「国民経済計算年報」

(注) 土地、株式以外の項目が負であるために土地と株式の合計が全体を上回る場合がある。

第93表 産業別土地保有割合

第93表 産業別土地保有割合

(昭和63年、資本金10億円以上)

(単位 百万円、%)

	パルプ・紙・紙 加工品製造業	鉄鋼業	事業所サービス業
推計法人数	47	65	92
資産合計	4,785,098	14,660,881	25,879,050
売上高	3,892,114	11,029,470	8,994,458
土地	289,738	882,251	354,484
一法人あたり	6,165	13,573	3,853
資産に占める割合	6.1	6.0	1.4
売上高に占める割合	7.4	8.0	3.9

資料出所 大蔵省「法人企業統計年報」

第94表 貯蓄残高の伸び率

第94表 貯蓄残高の伸び率
(勤労者世帯)(単位 %))

昭和51年	19.5
52	10.6
53	6.8
54	8.1
55	17.7
56	16.4
57	7.2
58	3.3
59	6.2
60	6.6
61	5.9
62	11.8
63	9.0
平成元年	9.7

資料出所 総務庁統計局「貯蓄
動向調査」

第95表 東証株価指数(第一部)の動向

第95表 東証株価指数(第一部)の動向
(昭和43.1.4=100)

昭和50年	312.06
51	347.51
52	376.78
53	415.41
54	449.88
55	474.00
56	552.29
57	548.28
58	647.41
59	815.47
60	997.72
61	1324.26
62	1963.29
63	2134.24
平成元年	2569.27

資料出所 東京証券取引所「証券統計年報」

第96表 職業別貯蓄残高格差

第96表 職業別貯蓄残高格差

(勤労者世帯=100)

	商人・職人	個人経営者	法人経営者	自由業者
昭和52年	134.8	200.1	364.5	227.4
53	140.2	187.2	324.3	224.2
54	145.1	295.1	402.9	263.2
55	128.3	199.5	368.0	232.5
56	123.1	164.4	321.2	207.6
57	119.8	163.9	351.3	204.9
58	119.4	228.3	346.4	221.9
59	124.0	221.5	280.5	196.7
60	127.8	186.0	297.2	228.7
61	128.8	228.1	279.0	221.7
62	125.3	199.0	341.1	278.2
63	132.4	158.5	295.7	223.0
平成元年	148.5	196.4	447.6	179.5

資料出所 総務庁統計局「貯蓄動向調査」

第97表 貯蓄の内訳別増減寄与度

第97表 貯蓄の内訳別増減寄与度
(勤労者及び法人経営者世帯、59年から元年にかけての伸び率)
(単位 %、ポイント)

	勤労者世帯	法人経営者世帯
通貨性預金	3.5	2.4
定期性預金	10.5	8.6
生命保険	20.0	15.0
有価証券	17.2	118.4
その他	2.1	0.2

資料出所 総務庁統計局「貯蓄動向調査」

第98表 貯蓄額が増加した理由

第98表 貯蓄額が増加した理由 (平成元年)

(単位 %)

貯蓄額	所得の増加	貯蓄性向の増加	配当・利子	株式価格の増加
200万円未満	42.3	23.1	23.1	—
200～500	53.6	36.0	12.3	3.9
500～700	56.8	35.7	8.9	10.0
700万円以上	48.2	32.6	16.3	19.9

資料出所 日本銀行貯蓄広報中央委員会「貯蓄に関する世論調査」

(注) 図中凡例は、同調査において、それぞれ以下の通り。

所得の増加：「勤労所得が増加した」

貯蓄性向の増加：「勤労所得から貯蓄する割合を上げた」

配当・利子：「配当や金利収入があった」

株式価格の増加：「株式、債券価格の上昇によりこれらの評価額が増加した」

第99表 所得階級ごとの貯蓄残高別ジニ係数の推移

第99表 所得階級ごとの貯蓄残高別ジニ係数の推移

	第1階級	第2階級	第3階級	第4階級	第5階級
昭和55年	0.469	0.391	0.380	0.381	0.403
56	0.486	0.382	0.390	0.382	0.422
57	0.480	0.420	0.405	0.397	0.420
58	0.467	0.412	0.387	0.393	0.418
59	0.493	0.399	0.398	0.385	0.389
60	0.487	0.419	0.391	0.387	0.395
61	0.458	0.429	0.384	0.396	0.406
62	0.484	0.413	0.396	0.418	0.430
63	0.474	0.448	0.398	0.396	0.412
平成元年	0.487	0.453	0.426	0.380	0.419

資料出所 総務庁統計局「貯蓄動向調査」により労働省労働経済課試算。
 (注) 試算方法は第II-47図と同じ。

第100表 年間収入階級第II,第III五分位における年間収入及び貯蓄分位数別貯蓄残高の前年差

第100表 年間収入階級第II、第III五分位における年間収入及び貯蓄分位数別貯蓄残高の前年差（勤労者世帯）

(単位 千円)

年間収入階級	年 間 収 入	貯蓄第I十分位	貯蓄第IX十分位
第II五分位			
61年	121	110	430
62	111	- 20	210
63	139	100	1,330
元年	256	140	2,290
第III五分位			
61年	131	300	2,160
62	234	- 60	230
63	127	100	2,210
元年	247	150	1,640

資料出所 総務庁統計局「貯蓄動向調査」

第101表 各国の居住状況

第101表 各国の居住状況

国名	調査年	一世帯当たり 平均人員 (人)	規模	
			1戸当たり 平均室数 (室)	1人当たり 床面積 (㎡)
アメリカ	1981	2.7(1981年)	5.3(1985年) (メディアン)	60.9(1985年) (建設省推計)
イギリス {イングランド} {ウェールズ}		2.7	5.0	35.2(1988年) (イングランド)
西ドイツ		2.4(1981年)	4.4(1978年)	32.0(1982年)
フランス		2.9(1975年)	3.8(1984年)	30.7(1984年)
日本	1988	3.18	4.86	25.2(1988年) (建設省推計)

資料出所 外国-「Annual Housing Survey」
 「Statistical Abstract of the United States」(アメリカ)「Census1981」(イギリス)
 「1%-Wohnungstichprobe」(西ドイツ)
 「Les Conditions de Logement des Ménages en 1978」、「Statistiques et Etudes
 Générales」(フランス)
 日本-「住宅統計調査」(総務庁)(1988年)
 その他は建設省住宅局「住宅事情と住宅対策の現況」(平成元年10月)
 (注)1) 1人当たり床面積は内りの基準に換算したもの。
 2) データはストックの住宅に関するもの。

第102表 各国の持家住宅率の現状

第102表 各国の持家住宅率の現状

(単位 %)

国名	調査年	持家率
アメリカ	1985	63.5
イギリス (グレート・ブリテン)	1987	64.1
西ドイツ	1982	40.1
フランス	1982	50.7
イタリア	1971	50.9
スウェーデン	1980	54.9
日本	1988	61.3

資料出所 外国-「世界統計年鑑」(国連)
 「Annual Housing Survey」(アメリカ)
 「Annual Abstract of Statistics」(イギリス)
 「1%-Wohnungstichprobe」(西ドイツ)
 「Statistiques et Etudes Générales」(フランス)
 日本-「住宅統計調査」(総務庁統計局)

第103表 分譲住宅購入者の購入費

第103表 分譲住宅購入者の購入費

(単位 万円)

	59年	60	61	62	63	元年
全 国	2785.2	2670.6	2894.4	2922.1	3138.7	3670.0
大 都 市 地 域	2870.8	2782.1	3156.0	3133.5	3403.9	4181.5
東 京 圏	2923.6	3051.5	3394.8	3505.3	4089.7	4977.6
大都市地域以外	2314.1	2053.3	2099.2	2293.7	2370.0	2593.4

資料出所 建設省「民間住宅建設資金実態調査」

第104表 住宅価格の年収倍率

第104表 住宅価格の年収倍率(欧米主要国)

国 名	年	単 位	新築住宅 平均価格 (A)	平均世帯 年 収 (B)	(A/B)
アメリカ	1987	ド ル	104,500	30,853	3.4
イギリス	1987	ポンド	51,290	11,648	4.4
西ドイツ	1986	マルク	249,477	53,992	4.6
日 本 (全 国)	1988	千 円	35,527	6,210	5.7
(東京圏)			59,351	6,822	8.7

(注) 住宅価格及び所得の定義並びに資料出所は次のとおり。

アメリカ：住宅価格…新築戸建住宅販売価格、中位値

(Statistical Abstract)

所 得…全国世帯年収、中位値(同上)

イギリス：住宅価格…建築組合利用者新築住宅価格 (BSA Bulletin)

所 得…全国平均世帯年収(同上)

西ドイツ：住宅価格…新築戸建住宅平均価格(Bundesbaublatt)

所 得…勤労者4人世帯平均年収

(Statistisches Jahrbuch)

日 本：住宅価格…建設省「民間住宅建設資金実態調査」(一戸建持家)

所 得…総務庁統計局「貯蓄動向調査」

第105表 世帯主の年齢階級別持家世帯率

第105表 世帯主の年齢階級別持家世帯率

(勤労者世帯、全国、普通世帯)

	昭和58年	63年
29歳未満	19.6	13.7
30～34	43.3	36.3
35～39	58.0	54.7
40～44	66.4	64.5
45～49	70.6	70.3
50～54	74.1	73.2
55～59	77.0	76.8
60歳以上	72.3	74.7

資料出所 総務庁統計局「住宅統計調査」

(注) 普通世帯とは、住居と生計を共にしている家族などの世帯をいい、単身の下宿人・間借り人、雇主と同居している単身の住込みの従業員などを除く。

第106表 個人持家取得者の自己資金率

第106表 個人持家取得者の自己資金率 (単位 %)

	昭和58年	59	60	61	62	63	元年
全 国	44.6	43.9	44.8	51.3	53.9	50.8	53.7
大都市地域	44.3	46.6	47.3	56.1	59.5	57.6	61.1
東京圏	46.0	50.9	47.4	54.8	62.9	61.9	70.5
大都市地域以外	44.7	41.3	41.8	46.0	47.2	45.0	47.3

資料出所：建設省「民間住宅建設資金実態調査」

第107表 分譲住宅購入者の自己資金率

第107表 分譲住宅購入者の自己資金率 (単位 %)

	昭和59年	60	61	62	63	元年
全 国	39.9	38.5	44.5	42.9	41.5	41.9
大都市地域	40.2	38.7	46.5	44.0	43.2	44.6
東京圏	39.5	39.9	47.8	46.6	48.4	47.2
大都市地域以外	37.7	36.9	35.6	38.7	34.1	32.8

資料出所：建設省「民間住宅建設資金実態調査」

第108表 個人持家取得者の自己資金内訳

第108表 個人持家取得者の自己資金内訳 (全国) (単位 %)

	58年	59	60	61	62	63	元年
預貯金等	67.0	70.2	68.6	58.8	53.3	51.6	48.3
不動産売却	27.2	22.6	23.2	33.1	37.9	41.4	44.8
贈与・相続	1.3	0.9	4.7	3.6	2.9	3.5	1.8
その他	4.4	6.3	3.5	4.5	5.9	3.5	5.1

資料出所 建設省「民間住宅建設資金実態調査」

第109表 分譲住宅購入者の自己資金内訳

第109表 分譲住宅購入者の自己資金内訳 (東京圏) (単位 %)

	57年	58	59	60	61	62	63	元年
預貯金等	41.2	48.6	57.2	56.4	46.0	48.6	35.0	41.9
不動産売却	53.9	48.4	37.2	36.8	48.4	44.0	58.7	50.5
贈与・相続	1.1	1.2	3.1	5.4	3.8	4.7	3.6	5.0
その他	3.7	1.9	2.5	1.4	1.7	2.8	2.6	2.6

資料出所 建設省「民間住宅建設資金実態調査」

第110表 過去5年以内に建築された持家の構成

第110表 過去5年以内に建築された持家の構成 (勤労者世帯)

	分譲住宅	中古住宅	建替えを 除く新築	建 替 え	相続贈与	そ の 他
全 国						
昭和58年	33.5	2.6	40.6	21.4	—	1.9
63	28.7	2.7	42.4	24.4	1.3	0.6
京浜大都市圏						
昭和58年	48.6	3.0	28.0	18.9	—	1.5
63	40.3	2.9	30.9	24.5	0.8	0.6

資料出所 総務庁統計局「貯蓄動向調査」
 (注) 58年は「相続贈与」は調査されていないため、「その他」の中に含まれている。

第111表 持家建築後5年以内の世帯の住宅ローン年収比

第111表 持家建築後5年以内の世帯の住宅ローン年収比 (勤労者世帯)

	25～29歳	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59
54年	178.8	146.9	142.5	140.4	121.4	98.7	77.8
59	91.5	199.4	169.7	155.8	113.5	101.1	62.6
元年	115.9	208.2	173.5	199.2	174.4	96.7	97.1

資料出所 総務庁統計局「貯蓄動向調査」

第112表 借家世帯の住宅取得年齢別取得計画

第112表 借家世帯の住宅取得年齢別取得計画 (世帯計) (単位 %)

	20 歳 台					30 歳 台				
	59年	61	62	63	元年	59年	61	62	63	元年
取得計画あり						取得計画あり				
20 歳 台	5.8	4.0	6.6	5.8	4.1	30 歳 台	19.2	13.6	14.9	16.4
30 歳 台	21.5	31.2	26.3	20.7	26.7	40 歳 台	22.9	20.0	18.4	16.2
40 歳 以上	20.6	14.4	10.2	13.2	13.7	50 歳 以上	5.1	4.4	3.6	4.9
親からの相続	12.4	19.2	21.9	16.5	17.1	親からの相続	10.5	18.7	24.0	19.7
当面計画なし	} 33.9	24.0	24.8	33.9	33.6	当面計画なし	} 34.5	33.1	28.5	30.2
将来ともなし		5.6	8.0	7.4	3.4	将来ともなし		6.3	6.7	7.3

資料出所 日本銀行貯蓄広報中央委員会「貯蓄に関する世論調査」(平成元年)
 (注) 1. 不詳を含むため合計は100にならない。
 2. 59年は調査票では「当面計画なし」と「将来とも取得のつもりなし」の区別はなく、「いまのところ考えていない」とされている。

第113表 土地家屋借金純減を除く黒字率

第113表 土地家屋借金純減を除く黒字率

(単位 %)

	全 国	京 浜 大 都 市 圏	持 家	土地家屋 借金返済 世帯	民間借家	給与住宅
昭和55年	19.7	19.9	19.2	17.3	15.8	24.6
平成元年	20.1	18.5	19.5	17.5	17.2	26.9

資料出所 総務庁統計局「家計調査」

(注) 「土地家屋借金純減を除く黒字率」とは、可処分所得から消費支出を差し引いて得られる黒字のうちから土地家屋借金純減分を除いたものを可処分所得で除して得られるものをいう。

第114表 住宅の所有関係別世帯人員一人当たり延べ面積

第114表 住宅の所有関係別世帯人員一人当たり延べ面積

(単位 m²)

	昭和58年		63 年	
	全 国	京浜大都市圏	全 国	京浜大都市圏
総 数	25.69	21.34	27.95	23.28
持 家	29.45	24.96	31.92	27.00
借 家	16.48	14.84	17.94	16.28

資料出所 総務庁統計局「住宅統計調査」

第115表 移転した世帯の移転理由

第115表 移転した世帯の移転理由 (全国と東京圏、三つまでの複数回答)

(単位 %)

	持 家		民間借家		給与住宅	
	全 国	東京圏	全 国	東京圏	全 国	東京圏
住宅が狭かった	42.7	44.2	19.3	19.6	9.5	12.0
住宅が老朽化していた	15.3	11.5	8.3	8.5	3.5	3.1
家賃が高かった	7.1	6.2	6.7	7.5	5.3	7.5

資料出所 建設省「住宅需要実態調査」(昭和63年)

(注) 1) 当該調査では、移転理由として上掲の住宅に関わる理由の他に、「結婚などの世帯の分離独立のため」など身辺事情、環境に対する不満、その他の理由が挙げられている。

2) 住宅の所有関係は、移転後の居住住宅についてのものである。

第116表 東京都及び東京圏の実質賃金

第116表 東京都及び東京圏の実質賃金（所定内給与）

（全国平均=100）

	東京都			東京圏		
	男女計	男子	女子	男女計	男子	女子
昭和50年	110.4	107.3	112.9	108.0	104.7	110.7
51	105.5	102.5	108.3	104.3	101.2	106.0
52	106.7	103.2	110.1	105.2	101.8	107.4
53	106.9	103.7	108.5	105.4	102.2	106.6
54	106.7	103.2	109.2	105.5	102.1	107.0
55	108.5	105.8	108.5	105.7	102.9	106.4
56	106.5	103.5	107.8	105.4	102.6	106.4
57	107.9	104.4	109.3	106.2	102.9	107.1
58	107.4	104.6	107.7	106.0	103.2	105.7
59	107.2	104.5	108.4	105.5	102.7	106.1
60	108.2	105.6	108.0	105.2	102.4	106.2
61	108.6	106.7	107.6	105.5	103.1	105.7
62	108.6	106.3	107.9	105.5	103.1	105.7
63	108.3	106.1	108.0	105.4	102.8	106.3

資料出所 労働省「賃金構造基本統計調査」
総務庁統計局「消費者物価指数」

第117表 東京を出身地としない者が東京で就職した動機

第117表 東京を出身地としない者が東京で就職した動機

M.A.(単位 %)

勤め先が少なかった	賃金や労働時間など賃金労働条件がよくなった	自分の仕事に就きたか	社会的地位の高かった	会社があつたから	一度、地元を出てみた	学校がこちらにあつた	配偶者の勤務先で（結婚のためなど）	家族が移転したから	その他	無答
40.2	22.8	39.1	7.8	7.8	17.4	18.7	1.1	5.9	11.4	9.3

資料出所 労働省委託「大都市圏と地方圏との労働力需給の不均衡と勤労者生活に関する調査」
（昭和63年3月）

第118表 週休制の形態別適用労働者数の割合の推移

第118表 週休制の形態別適用労働者数の割合の推移

(単位 %)

	週休1日制・1日半制	月1回週休2日制	月2回・隔週週休2日制	月3回週休2日制	完全週休2日制
昭和45年	82.1	5.5	6.8	1.1	4.5
50	30.1	13.9	29.1	5.5	21.4
55	25.9	15.2	28.5	7.4	23.0
60	23.6	14.9	27.2	7.2	27.1
63	20.0	12.0	28.5	10.0	29.5

資料出所 労働省「賃金労働時間制度等総合調査」

第119表 労働時間制度等の改善内容、実施の時期別事業所割合

第119表 労働時間制度等の改善内容、実施の時期別事業所割合 (M.A. 単位 %)

産業・企業規模	計	年次有給休暇の付与日数の引き上げ				年次有給休暇の取得率の引き上げ			
		過 去 一 年 施	今 後 実 施 定	現 検 討 在 中	当 面 実 施 い	過 去 一 年 施	今 後 実 施 定	現 検 討 在 中	当 面 実 施 い
産 業 計	100	26	7	8	59	14	14	20	51
製 造 業	100	26	7	7	60	15	14	20	50
1,000人以上	100	34	2	3	60	23	15	24	38
300～999人	100	39	7	6	48	11	17	22	50
100～299人	100	14	16	10	60	6	13	15	66
30～99人	100	9	11	13	66	8	10	16	66
卸売・小売業、飲食店	100	27	5	11	57	13	15	19	53
サ ー ビ ス 業	100	21	8	12	58	9	15	21	55

資料出所 労働省「労働経済動向調査」(元年5月)

第120表-1 特別休暇制度がある企業数の割合

第120表-1 特別休暇制度がある企業数の割合 (単位 %)

	病気休暇	結婚休暇	忌引休暇	配偶者出産
規 模 計	30.8	93.0	93.9	57.5
1,000人以上	27.8	99.8	100.0	78.7
100～999人	26.8	98.3	98.8	70.0
30～99人	32.5	90.7	91.7	51.8

資料出所 労働省「賃金労働時間制度等総合調査」(昭和63年)

第120表-2 社員のモラル向上策としてのフレックスタイム制度

第120表-2 社員のモラル向上策としてのフレックスタイム制度 (M.A. 単位 %)

	フレックス・タイム制度の導入・充実
過去3年間	12.5
今後3年間	31.4

資料出所 経済企画庁「企業行動に関するアンケート調査」(2年1月)

第121表 労働時間制度等の改善理由別事業所割合

第121表 労働時間制度等の改善理由別事業所割合

(M.A. 単位 %)

産業・企業規模	改善実施する	労働時間短縮は世の中の流れだから	労働基準法が改正されたため	官庁の土曜閉庁方式や金融機関の週休2日制が実施されたため	労働者側の要求があったため	人材確保のため	業界全体として取り組むことになったため	その他
産業計	100	90	67	24	59	63	32	14
製造業	100	90	65	20	64	58	34	13
1,000人以上	100	90	54	12	83	52	42	14
300～999人	100	91	74	29	65	57	28	6
100～299人	100	90	79	25	42	66	21	15
30～99人	100	89	75	33	25	71	25	20
卸売・小売業、飲食業	100	91	67	31	56	76	32	18
サービス業	100	86	76	32	36	67	21	13

資料出所 労働省「労働経済動向調査」(元年5月)

(注) 数値はそれぞれの理由が労働時間制度等の改善実施(または予定若しくは検討中)に「該当した」とする事業所の割合である。

第122表 週間就業時間数別にみた男子雇用者の生活時間(曜日別の比較)

第122表 週間就業時間数別にみた男子雇用者の生活時間
(曜日別の比較)

(単位 時:分)

	15時間未満	15～34	35～42	43～48	49～59	60時間以上
自由時間						
平日	5:17	5:39	4:46	4:31	4:02	3:14
土曜日	6:43	6:37	7:34	6:40	5:40	4:39
日曜日	9:25	8:53	9:55	9:44	9:15	8:19
積極的活動						
平日	1:48	1:51	1:20	1:17	1:05	0:53
土曜日	2:51	2:43	3:00	2:39	2:07	1:47
日曜日	4:04	3:58	4:14	4:11	3:55	3:33
休養的活動						
平日	3:30	3:47	3:25	3:14	2:56	2:21
土曜日	3:52	3:52	4:35	4:01	3:34	2:52
日曜日	5:21	4:55	5:41	5:33	5:21	4:47

資料出所 総務庁統計局「社会生活基本調査」(昭和61年)

(注) 生活時間の分類については第II-76図(注)参照。

第123表 週休制度別に見た雇用者の生活時間

第123表 週休制度別に見た雇用者の生活時間(曜日別)

(単位 時:分)

	男 子		女 子	
	毎週週休 2日制	週休 1日制	毎週週休 2日制	週休 1日制
自由時間				
平日	4:13	4:04	3:44	3:30
土曜日	7:47	4:41	5:38	3:51
日曜日	9:47	8:58	7:03	6:19
積極的活動				
平日	1:15	57	55	44
土曜日	3:17	1:30	2:08	59
日曜日	4:12	3:43	2:59	2:21
休養的活動				
平日	2:58	3:07	2:48	2:46
土曜日	4:30	3:11	3:29	2:50
日曜日	5:33	5:15	4:05	3:58

資料出所 総務庁統計局「社会生活基本調査」(昭和61年)
 (注) 生活時間の分類については第II-76図(注)参照。

第124表 週休制度別に見た雇用者の行動者比率及び種目数

第124表 週休制度別に見た雇用者の行動者比率及び種目数(昭和61年、調査までの1年間)
 (単位 %、種目数)

	男 子			女 子		
	計	毎週週休 2日制	週休 1日制	計	毎週週休 2日制	週休 1日制
スポーツ (種目数)	88.4 (4.5)	90.9 (5.0)	84.3 (3.8)	77.0 (3.6)	78.5 (3.8)	70.6 (3.1)
趣味、娯楽 (種目数)	92.4 (4.4)	93.4 (4.6)	90.1 (3.9)	90.9 (5.4)	91.5 (5.4)	88.1 (4.7)
旅行、行楽	88.2	90.5	83.8	87.4	88.2	84.1

資料出所 総務庁統計局「社会生活基本調査」(昭和61年)
 (注) ()内の種目数は「社会生活基本調査」で21種目のスポーツ、22種目の趣味につき調査時点まで1年間の参加の有無をたずねて得られた各種目の参加者を累計し、それをスポーツあるいは趣味・娯楽の実施者で除して求めた、行動者あたりの参加種目数である。なお、対象とした種目以外の「その他」も1種目として数えている。

第125表 連続休暇取得の有無別に見た旅行実施割合

第125表 連続休暇取得の有無別に見た旅行実施割合(男子雇用者)

(単位 %)

	とらな かった	とった				
			年末年始	ゴールデン ウィーク	夏 季	その 他 時期
計	100.0 (62.3)	100.0 (37.7)	100.0 (25.3)	100.0 (5.3)	100.0 (19.7)	100.0 (5.9)
旅行全体	86.5	91.1	91.5	92.3	93.4	87.0
日帰りの行楽	60.3	64.2	65.2	65.4	66.5	59.9
国内宿泊旅行	79.9	86.3	86.5	88.5	89.9	80.6
観光	72.5	78.9	79.3	81.5	82.2	73.1
家族と	32.9	39.3	38.3	38.4	42.7	35.0
職場での	49.0	52.1	54.4	54.6	54.1	37.8
友人と	24.8	30.4	30.4	34.4	32.8	31.1
帰省	21.3	31.6	31.3	34.0	37.3	24.6
出張	30.5	34.7	35.9	36.4	37.6	26.2
海外観光	2.8	5.8	4.4	5.0	5.4	13.1
海外出張	2.3	3.6	3.5	3.7	4.1	3.6

資料出所 総務庁統計局「社会生活基本調査」(昭和61年)

(注) 1) 計欄()内は全雇用者に占める割合。

2) 調査時点まで1年間における各種旅行の実施割合を、調査時点まで1年間における1週間以上の連続休暇取得状況、取得した休暇の種類別に集計したものである。

第126表 自由時間に占める積極的活動時間の割合

第126表 自由時間に占める積極的活動時間の割合(仕事を主にする有業者)

(単位 %)

	20~24	25~29	30~39	40~49	50~59	60~64歳
男子						
昭和56年	36.3	34.6	33.0	30.5	25.0	20.9
61年	38.6	38.4	34.6	32.4	27.6	27.6
女子						
昭和56年	33.8	31.2	25.2	20.2	16.7	16.5
61年	38.8	35.7	29.0	24.3	21.3	19.6

資料出所 総務庁統計局「社会生活基本調査」

第127表 年齢階級別に見た男子有業者の生活行動

第127表 年齢階級別に見た男子有業者の生活行動(仕事を主にする者)

(調査時点までの1年間の行動者率)

(単位 %)

	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69歳
スポーツ	92.7	94.0	92.0	87.6	74.5	65.2	62.2
学習研究	38.3	43.5	42.9	38.0	34.9	33.2	31.3
趣味娯楽	93.4	93.7	92.6	91.2	87.9	84.4	80.1
社会奉仕	16.7	20.3	27.2	30.1	28.8	30.9	35.4
旅行行楽	87.7	90.0	90.8	87.6	83.4	83.4	82.3

(調査時点まで1年間の行動種目数)

	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69歳
スポーツ	5.4	5.1	4.6	4.0	2.9	2.3	2.0
趣味娯楽	4.4	4.5	4.4	4.3	4.0	3.5	3.3

(調査週日曜日の行動者比率)

(単位 %)

	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69歳
スポーツ	15.3	15.2	15.9	16.5	11.1	10.8	9.1
学習研究	7.5	8.2	7.8	7.6	6.8	6.8	7.9
趣味娯楽	34.0	32.2	33.7	34.1	32.8	29.8	27.9
社会奉仕	1.4	2.2	2.4	3.5	3.3	4.3	4.6
テレビ、ラジオ	76.5	79.0	84.0	85.9	86.7	88.4	90.3
休養くつろぎ	62.2	65.4	70.2	70.3	72.8	73.5	73.9

資料出所 総務庁統計局「社会生活基本調査」(昭和61年)

第128表 男子有業者の生活時間

第128表 男子有業者の生活時間
(京浜、京阪神両大都市圏における中心都市と他地域の比較)
(仕事をおもにしているもの)

(平日) (単位 時：分)

	全 国	京浜大都市圏			京阪神大都市圏		
		東 京 都 区 部	他 地 域	大 阪 市 内	他 地 域		
必需的時間	10：01	9：55	10：04	9：52	9：55	9：57	9：55
うち睡眠	7：41	7：32	7：38	7：30	7：34	7：35	7：34
拘束時間	9：37	9：59	9：51	10：02	10：00	9：51	10：02
うち仕事	8：31	8：32	8：40	8：29	8：44	8：42	8：44
うち通勤通学	57	1：19	1：04	1：25	1：09	59	1：11
自由時間	4：22	4：06	4：05	4：06	4：04	4：12	4：02
積極的活動	1：12	1：14	1：15	1：14	1：07	1：01	1：08
休養的活動	3：11	2：52	2：50	2：53	2：59	3：11	2：57

(日曜)

	全 国	京浜大都市圏			京阪神大都市圏		
		東 京 都 区 部	他 地 域	大 阪 市 内	他 地 域		
必需的時間	11：06	11：14	11：26	11：09	11：18	11：18	11：18
うち睡眠	8：31	8：33	8：42	8：29	8：39	8：45	8：38
拘束時間	3：59	3：37	3：12	3：47	3：29	3：25	3：30
うち仕事	3：02	2：32	2：15	2：39	2：29	2：36	2：28
うち通勤通学	14	17	15	18	15	16	15
自由時間	8：55	9：09	9：22	9：04	9：14	9：16	9：14
積極的活動	3：42	3：46	3：58	3：41	3：38	3：28	3：40
休養的活動	5：14	5：22	5：24	5：21	5：36	5：50	5：33

(56年との比較、週全体の1日あたり)

(単位 時：分)

	全 国		京 浜 大 都 市 圏		京 阪 神 大 都 市 圏	
	56年	61年	56年	61年	56年	61年
拘束時間	8：28	8：36	8：31	8：46	8：38	8：48
うち仕事	7：24	7：31	7：11	7：23	7：21	7：35
うち通勤通学	52	49	1：08	1：07	1：06	59
自由時間	4：54	5：13	4：56	5：06	4：48	5：04
積極的活動	1：29	1：42	1：38	1：46	1：27	1：37
休養的活動	3：26	3：31	3：18	3：20	3：22	3：27

資料出所 総務庁統計局「社会生活基本調査」(昭和61年)

- (注) 1) 京浜大都市圏、京阪神大都市圏の「他地域」の数値は、両大都市圏及び中心都市の数値に基づき、労働省労働経済課推計
2) 生活時間の分類については第II-76図(注)参照。

第129表 余暇と仕事の関係に関する意識

第129表 余暇と仕事に関する意識

(単位 %)

	仕事が大切で 余暇は休養や気分 転換である (a)		余暇が大切で 仕事は余暇を楽 しむための手段 である(b)		仕事も余暇も 大切で、両者を 区別してそれぞ れを充実させる		a-b	
	61年	63年	61年	63年	61年	63年	61年	63年
全 体	32.5	29.0	8.0	11.1	38.5	38.3	24.5	17.9
被 傭 者	36.3	28.0	7.9	11.7	41.7	44.8	28.4	16.3
自 営 業 主	47.4	43.4	5.8	8.7	28.6	27.8	41.6	34.7
無 職	21.8	23.4	9.4	11.9	39.8	36.2	12.4	11.5
家族従業者	45.1	40.7	4.4	7.4	33.5	33.7	40.7	33.3
男	37.1	33.0	7.7	10.6	37.6	36.6	29.4	22.4
15-19歳	16.8	27.3	12.9	16.9	48.5	32.0	3.9	10.4
20-29	24.6	15.1	9.9	12.9	50.0	58.6	14.7	2.2
30-39	35.7	26.5	7.6	10.8	44.2	49.0	28.1	15.7
40-49	43.5	35.1	5.2	9.2	39.4	38.2	38.3	25.9
50-59	53.5	50.0	7.1	7.1	26.5	28.2	46.4	42.9
60歳-	37.5	34.1	6.7	10.6	25.8	23.3	30.8	23.5
女	28.7	25.8	8.2	11.4	39.2	39.6	20.5	14.4
15-19歳	11.3	17.5	6.6	11.7	56.6	51.9	4.7	5.8
20-29	17.5	13.8	10.9	16.3	55.7	51.8	6.6	- 2.5
30-39	25.4	21.2	8.2	11.1	46.4	47.6	17.2	10.1
40-49	40.0	27.2	10.2	11.5	35.2	40.9	29.8	15.7
50-59	37.3	36.5	6.2	9.6	30.6	31.1	31.1	26.9
60歳-	31.2	31.1	6.8	9.8	21.8	22.1	24.4	21.3

資料出所 総理府広報室「余暇と旅行に関する世論調査」

第130表 自由時間関連消費支出の推移と実態

第130表 自由時間関連消費支出の推移と実態
(勤労者世帯)

(推移)

	昭和40年	45	50	55	60	平成元年
(指数、昭40=100)						
消費支出計(実質)	100.0	128.0	149.5	156.3	166.1	176.3
内自由時間関連	100.0	141.3	150.9	168.9	183.9	207.9
自由時間関連 支出の割合(%)	10.4	13.0	11.9	12.7	13.2	14.3

(年間収入5分位階級別の支出額(平成元年))

	第1階級	II	III	IV	V
階級間総対比 (第III階級=100)					
消費計	68.3	86.8	100.0	119.1	149.6
自由時間関連	63.0	85.6	100.0	119.3	150.1
上記以外	69.2	87.0	100.0	119.0	149.5
自由時間関連 支出の割合(%)	13.9	14.9	15.1	15.1	15.1

資料出所 総務庁統計局「家計調査」

- (注) 1) 自由時間関連消費は給食を除く外食、定期を除く交通費、教養娯楽サービス、教養娯楽耐久財、文房具を除く教養娯楽用品、書籍・他の印刷物、旅行かばんの合計。
2) 費目別集計を基本に一用品目別集計をもとに推計。
3) 年間収入階級は、収入の少ない者から第I階級、第II階級……と配列。
4) 実質消費支出の算出に当たっては、計は支出額を消費者物価指数の掃蕩家賃を除く総合で除して求め、自由時間関連支出は各々の費目を対応する消費者物価指数で実質化したうえで合計した。

第131表 企業規模別にみた自由時間関連費用及び施設

第131表 企業規模別にみた自由時間関連費用及び施設
(費用は昭和63年、施設は昭和61年)

(単位 円、%)

	規模計	5000人以上	1000～4999	300～999	100～299	30～99人
文化・体育・娯楽に関する費用 (常用労働者1人1ヵ月平均)	1,263	2,023	1,015	919	1,032	1,151
体育施設設置率	39.3	93.5	83.8	69.6	48.2	32.6
体育館	8.2	69.6	38.8	20.5	12.7	4.6
その他の屋内施設	25.9	78.7	57.9	44.4	32.0	21.4
グラウンド	17.7	86.1	58.6	39.2	22.9	12.9
コート	18.1	89.0	68.6	48.9	24.5	11.8
プール	8.6	69.4	34.0	19.7	9.3	6.5
文化、教養、娯楽、余暇施設設置率	48.6	99.6	96.9	81.9	60.8	40.6
図書施設	12.9	59.9	40.4	27.7	16.3	9.6
各種クラブ室	14.9	81.1	63.5	42.1	20.8	9.2
保養所	32.1	99.0	89.0	64.4	42.5	24.3
季節的余暇施設	26.9	84.8	74.0	54.1	33.9	20.9
社員クラブ	16.7	74.1	49.4	29.9	21.6	13.0
運営形態別施設構成						
保養所						
企業単独	29.3	79.9	59.2	34.5	29.4	24.4
共同	53.7	49.2	52.0	58.9	56.9	51.0
第三者との利用契約	43.7	62.5	55.9	51.9	37.9	43.3
季節的余暇施設						
企業単独	19.4	42.1	29.0	19.5	15.7	20.0
共同	50.7	32.9	41.0	54.0	57.8	47.7
第三者との利用契約	48.2	72.2	66.9	52.7	43.0	47.7

資料出所 労働省「賃金労働時間制度等総合調査」

第132表 アメリカの度数率の推移

第132表 アメリカの度数率の推移

年	度数率
1955年	22.99
1965	12.38
1975	13.10
1985	9.90
1987	9.30

資料出所 労働省編「安全の指標」

(注) 日本の災害率は労働省の「労働災害動向調査」により、労働者数100人以上の事業所について抽出調査を行ったものであり、米国の災害率はNational Safety Council (NSC) が同会の会員事業所について調査した結果を日本式に換算したものであるため、必ずしも両国の全体の姿を正確に表わすものではないが、比較のための尺度として用いた。